

病児保育奮闘記

(7)

子どもサポート H&K

大石 仁美

飛び込んできた女神♥

開設して4年目を迎えたある日、年配の女性が訪ねて来られました。お孫さんの申し込みに来られたのかしら、と思って対応しましたが、どうもそうではなさそう。とても緊張しておられてピリピリ感が伝わってくるので、私の方も少し緊張して向き合っ座りました。

初対面どうし、お互いに相手のことを何も知らないまま、「お願いしたいことがあって・・・」という次の言葉を私は真摯な気持ちで待ちました。まじめな方ということだけは、はっきり分かったからです。

この突然飛び込んでこられた奇妙な来訪者の話を、思い出しつつ整理してみると、次のような内容でした。

「私は保育士で、一昨年まで某保育園で働いていましたが、若いとき教育大学で学んでいたのを、途中で放り投げてしまっていて、そのことがずっと引っかかっていた。もうすぐ定年という年になって、このままでは何もかも中途半端に終わってしまうという焦りに似た気持ちになり、思い切って、職場を退職し復学いたしました。おかげ

さまで、来春卒業というところまで漕ぎ着けましたが、卒論に選んだ病児保育というテーマになかなか切り込めず、時間ばかりが経ち、頭はまるでセメントで固めたようにコチコチ動きません。もうあきらめようと何度も思うのですが、その度にまわりの皆が励ましてくれます。なにも出来ない自分。人にも会いたくない。確実に病気です。そんな時、自転車で走っていてこの看板を見つけました。お願いします。ここで保育実習をさせてください。なにかが掴めるような気がするのです。どうぞお願いします。」

後から聞くと、彼女はもし断られたらどうしようと悲壮な覚悟だったようです。あと半年に迫った卒論を前に、恥も外聞もなく、助けてほしいと手を出されたら、振り払うこともできません。

「小さな施設です。なにも得られないかもしれませんが。」そう言ってその場で了承したのでした。

後々彼女は、まさに救いの神様だったと述懐していますが、実は私たちにとっても彼女は、女神様だったのです。(以後、彼女をFさんと呼ぶことにします。)

さあ、どうする！？

利用者の声が聞きたい

Fさんは、少子化に歯止めがかからない現状の中で、子育てと仕事をしていくうえで一番大変なことは何かという問いかけに、「子どもが病気の時」と答えた親が一番多かったという情報をすでに持っていて、だからこそ病児保育を卒論のテーマに選んだのでした。でも、現状と課題を浮き彫りにするためにどうやって切り込めばいいのか、社会の変化と制度の変遷を整理したり、各施設のパンフや行政のチラシ、病児保育に関係ありそうな子育てにかんする書物や資料を集めたり、京都市の担当部署を訪ねて（当時は保健増進課）五か所ある病後児保育施設の利用状況や、京都市の今後の方向性などの話を伺ったりもしていました。

京都市では、2001年に5か所での体制が整いましたが、利用者はなぜかとても少ないのが現状でした。そこで各施設に“事業の拡大”をお願いする一方で、市民に広く認知されていないのかもしれないと、スーパーやコンビニでも気軽に手に取れるような名刺サイズの案内チラシを、主に保育園、児童館等に置くなど、工夫を重ねていました。それでも目に見えた効果は見られなかったようです。

2003年に開設されたばかりの子どもサポートH&Kと年間の利用者を比較してみると次のようです。

京都市5施設合計	子どもサポートH&K
2003年 361名	172名
2004年 530名	320名
2005年 609名	445名

このあと子どもサポートH&Kは、500名近くで横ばい状態が続きます。市の方も600名余りが続いたようです。“あ～あ 暇やなあ～”という日も

結構ありましたから、市の方はもっと暇だったでしょう。5で割ると一施設あたり100名。年間240日稼働しているとして、一日あたり0.42名。一施設800万円ほど補助金を出しているはずなので、これではあせると思います。

なぜ利用者が少ないのか？ それは宣伝が行き届いていないからではなく、利用者のニーズに合っていないからに他ありません。

- ① 欲しいのは病後ではなく病中保育
- ② 診察を受けてからしか利用できないので大幅遅刻になる
- ③ 前日予約なので、急な発熱には対応できない。
- ④ どの施設も市周辺部で交通の便が悪い

これでは絵に描いた餅にすぎません。

Fさんは、利用者側に立ったサービスを提供している当施設での実習を通して、問題点が明確になったのです。（実際、市は2011年から上記の①、④を改善して、利用希望者があふれるようになっています。）

Fさんは、利用者の声が聞きたいという思いを強くし、アンケート作成にとりかかりました。担当教官の指導のもとに作られたアンケートは、大学側からの調査目的とお願いの文書に、子どもサポートからの協力依頼の文書を添えて、全会員さんに発送されました。発送人、受取人はFさんで、個人が特定されないよう工夫されていたのはもちろんです。

これほどまでに・・・♥

想像以上の感謝のことば

苦勞してアンケートを集計、整理されたFさんからの報告を受けて、驚いたのは私たちでした。回収率は57%でしたが、自由記述欄には用紙の裏までびっしり親の気持ち、病児保育のありがたさ、

そして子どもサポートH&Kの経営の心配まで書かれてあって、感謝の言葉が溢れていました。

- 他のところ（ファミリーサポート、ベビーシッター等）では、朝いちばんには連絡がつかなかったり、断られたりしますが、いつも快く引き受けていただけてとても有難く思っております。
- 共働きで親類が近くにいない私たちにとってなくてはならない存在です。
- 急病でも安心して預けられるという環境がすごく有難いです。
- 保育園にお迎えに行ってもらえることが有難いです。おかげで、職場に気を遣わなくなり、精神的に楽になりました。
- スタッフの方がいつも同じなので、安心です。子どももとても慕っていて、あたたかくてほっこりした時間を過ごしているんだと思うと、親としてうれしいです。
- 病気の子どもばかり看っていて、先生方が体を壊さないか心配です。こんな良いところがなくならないように、なにか出来ることがないか考えています。
- 経営が大変だと思いますが、ぜひ頑張って頂きたいです。看護休暇があればよい、病児保育所が整備されればよいというものではありません。仕事と子育ての両立で辛いとき、そのつらさを共感してくれる人がいてくれることが大切なのです。本当に頼りにしていて有難く大きな存在です。
- 病気以外のことで相談にのって頂き、不安な子育てから少し楽になれました。数えきれないほど利用しつつ、乗り切ってきたので、H&Kのスタッフは頼れる子育て仲間です。

いくつか抜粋してみました。このように有難い言葉がたくさん述べられていて、私たちは感動して胸が熱くなりました。利用者に喜んでもらえて

いる！それが目に見える形で伝わってきたことで、疲れも一瞬で吹き飛びました。Fさんが来てくれたお蔭です。

私たちが一番気にしていた利用料については、

- 良心的な料金でよくしていただいていると思います。
- 他に比べて、低料金で信頼できます。
- 保育の質を考えると妥当な金額だと思います。という人たちと、
- 金額が高いため、家計的にきついです。
- もう少し下げただけだとありがたいです。
- 公的な病児保育施設がほしいです。という人たちとはっきり二つに分かれます。これは家庭の収入によって当たり前のことで私たちにも納得でした。

私たちは、若者がこの事業に参入してくれることを願っていて、なんとか若者の生活が成り立つようなモデルになりたいのですが、今の料金でもなかなかそうはなりません。ただ、はっきりしたことは、高くないと思っている層の人たちをもっと取り込むことです。専門職で仕事に穴をあけられない人たちの客層を広げること、それしか生き残る道はありません。一方で高いと思っている人たちには、公的施設ができるよう運動してもらおうこと。すみわけしかないと確信するに至りました。

Fさんは多くの人に励まされながら、なんとか卒論を書き終え、無事卒業されました。私たちもほっとし、同時に人と人とのつながりの不思議さをおぼえます。卒業後のFさんは、その後6年にわたって子どもサポートH&Kの強力な助っ人として献身的に働いてくれることになったのでした。

さすがベテラン保育士♥

Fさんが当施設に毎日通ってくるようになって、雰囲気のがらりと変わってきました。資格は持つ

ているというものの、堅物で、教師のくせが抜け切れない爺ちゃん保育士と、子どもが病気の時は、べったり甘やかすのが最高の薬と思っている看護師のペアです。子どもの接し方がまるっきり違うので、衝突することも多いのですが、そこにFさんが入ってくると、うまく緩衝材の役割をしてくれ、彼女の接し方を見て、「ううん、なるほど」とお互い納得するという具合です。

子どもが、おもちゃの取り合い等でぐずり始めたら、他のことに関心が向くよう気持ちを切り替えてやればいい、そのテクニックもさすが。「う～ん」と唸ることも度々でした。また、眠くて泣く子のあやし方は、ゆりかごのように、横にゆするより縦にゆすると効果的ということも。考えてみれば、今どきの子の移動はほとんど車で、車の中で眠るということになれているのですね。だから車のようにゆらすと、本当によく寝てくれるのです。私たちはありがたいことに、時間とお金を使うことなく保育実習をする機会を手に入れたのでした。

ある朝のこと、出勤した私の顔を見るなり、「風邪ひかれたんですか？」とFさんの声。この時ばかりはびっくりしました。本当に風邪気味でしたから。風邪をひいたときの特有の目の表情を彼女は見逃さなかったのです。さすがベテラン！

短大での保育保健の講義にも、彼女の話をよく例として取り上げさせてもらいました。「ベテランはすごいよ。登園時の子どもの健康状態は、まずどこをみる？目だよ。目は口ほどに物を言うというよね。目は心の窓とも。彼氏とデートの時も、じーっと目を見て相手の心を見抜かなきゃダメだよ。と余談を入れながら、関心をひきつけて、「目が充血していないか、寝不足かもしれないし、泣いた後かも知れない。結膜炎かもしれない。風邪をひいた時には鼻も耳も目も細い管でつながっているから、特に目はうっとうしくなる。おろおろして焦点が定まっていなかったら、心理的になに

かあるかもしれないね。目が輝いていて大きな声で挨拶出来る子は大丈夫。あれ？なんか変。そういうことに気付く。私の目を見て一瞬で気づく、ベテラン保育士さんってすごいよね。」とまあ、こんな具合で、保育士の勉強をしておく、将来自分の子育てにもどんなに役に立つかを話して学習意欲をかきたてます。

実際、異常を見つけるのはいつも彼女が最初でした。「この子、おなかに2つ発疹があります。虫刺されでしょうか？」「あらほんとね。しばらく様子を見ましようか」「あのう、数か所増えてきました」「あら、水痘の可能性があるわね。隔離しましょう」という具合です。このように先輩保育士としてのFさんの例を教材に使わせてもらうことで、学生の士気はずいぶん上がったと思います。

こんなこともありました。夕方の5時過ぎ、そろそろ仕事を終えたお母さんが子どものお迎えに来られる時間です。忘れ物がないように荷物の点検をしているとき、電話が入りました。保育園へのお迎え依頼です。仕事の途中で今動けないとの事。はい。分かりました。と答えたものの、滅多にないことに狼狽しました。スタッフがひとり外に出ると、お母さんがお迎えに見えた時の対応をしている間、もう一人いる子どもが放っておかれることになります。とっさにFさんに電話をしますと、すぐに自転車をとぼして駆けつけてくれました。その間10分ほど。なんと有難かったことでしょうか。

Fさんは、私たちに恩があると思っておられるようですが、私たちこそ、教えられ、助けられ、励まされてきたのです。ひとのいい、ちょっぴりおっちょこちょいのところもある、愛すべき女神様に感謝でいっぱいです。